

国 語 科

◎和田 康孝 ○佐々木 清花 村田 茜 佐藤 源弥

1 目指す生徒の姿

豊かな社会を切り拓こうとする自立した学習者

2 全校研究テーマ

「キャリア×STEAM」の学習による、新たな価値を創造できる資質・能力の育成

3 国語科における「新たな価値を創造できる資質・能力」の捉え

ア 問題発見・解決能力 各教科等の「見方・考え方」を自在に働かせ、本質的な問いを見いだすこと	イ 批判的思考力 多面的・多角的に考察し、よりよい解決方法を見いだすこと	ウ 自分のよさや可能性を認識し、その力をさらに伸ばしたり、社会に生かそうとしたりする力 自己の生き方を尊重できること、他者を尊重し多様な他者と協働できること、社会貢献したり持続可能な社会を創造しようとしたりすること
互いの立場や考えを尊重し、言語を通して正確に理解したり、適切に表現したりすること	論理的に思考する力や豊かに想像したりすることで、自分の考えを形成すること	言葉を通じて人や社会と関わり自他の存在について理解を深めることを価値として認識すること

4 国語科における全校研究テーマの受け止め

中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説国語編第 2 章第 1 節の国語科の目標には、具体として、「思考力や想像力などは、認識力や判断力などと密接に関わりながら、新たな発想や思考を創造する原動力となる。こうした力を、未知の状況にも対応できる『思考力、判断力、表現力等』として育成することが重要となる。」と示されている。

本校国語科では、上記の内容を具現するために、すべての領域において位置付けられた「考えの形成」において、そこに至るまでの学習過程を生徒が振り返り、自分の考えを形成する基となったことや、次回の学習に向けて、今回の学習過程のあり方を批判的に捉えることが大切であると考えている。本研究では、「C 読むこと」において、左に示した学習過程によって繰り返し学習を行い、同じ分野の文章の学びにおける振り返りを蓄積していく。

- 構造と内容の把握
- 精査・解釈
- 考えの形成・共有
- 振り返り

このような学習を積み重ねていくことで、上記の「新たな価値を創造できる資質・能力」が育成され、「あさひのプロジェクト」においても実生活・実社会の諸課題に対して自分の考えをもって進めていくことができるだろう。

以上のことから、「学習指導要領」の具現と「新たな価値を創造できる資質・能力」を育成するために、令和 5 年度の国語科研究テーマを次のように設定した。

5 令和 5 年度 国語科研究テーマ

文章を読んで理解したことなどに基づいて、自分の考えを形成する力を高める学習の在り方

社 会 科

◎丸山 進一 ○富田 武 武井 正樹 恩河 梢

1 目指す生徒の姿

豊かな社会を切り拓こうとする自立した学習者

2 全校研究テーマ

「キャリア×STEAM」の学習による、新たな価値を創造できる資質・能力の育成

3 社会科における「新たな価値を創造できる資質・能力」の捉え

ア 問題発見・解決能力 各教科等の「見方・考え方」を自在に働かせ、本質的な問いを見いだすこと	イ 批判的思考力 多面的・多角的に考察し、よりよい解決方法を見いだすこと	ウ 自分のよさや可能性を認識し、その力をさらに伸ばしたり、社会に生かそうとしたりする力 自己の生き方を尊重できること、他者を尊重し多様な他者と協働できること、社会貢献したり持続可能な社会を創造しようとしたりすること
調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べること	課題(事象)を、多面的・多角的に考察し、課題(事象)の解決に向けて自分の意見や考えをまとめること	資料等を適切に用いて、自分や他者の意見や考えを発展させたり、合意形成に向かおうとしたりすること

4 社会科における全校研究テーマの受け止め

中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説社会編第 2 章第 1 節の社会科の目標には、「広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指す。」と示されている。

本校社会科では、公民としての資質・能力の基礎を育成するために、社会的事象を多面的・多角的に考察することや複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する学習が必要であると考える。そのために、地理・歴史・公民的分野ならでの視野、国内外の社会的事象等を取り扱う地球的な視野をもちながら、生徒を取り巻く多種多様な課題に対して「どのように捉えるのか」「どのように関わるのか」「どのように働きかけるのか」など生徒が自己との関わりの中で問題を見だし、見通しをもって追究し、実生活・実社会の諸課題を解決する学習を構想する。このような学習を積み重ねていくことで、上記ア～ウの資質・能力が育成され、本単元以降の学習（他分野も含む）だけでなく、「あさひのプロジェクト」においても、社会科で育成された資質・能力が発揮されたと考えた。

以上のことから、「学習指導要領」の具現と「新たな価値を創造できる資質・能力」を育成するために、令和 5 年度の社会科研究テーマを以下のように設定した。

5 令和 5 年度 社会科研究テーマ

社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断する力を高める学習の在り方

数 学 科

◎木内 浩司 ○金子 智 中村 満 平井 日向

1 目指す生徒の姿

豊かな社会を切り拓こうとする自立した学習者

2 全校研究テーマ

「キャリア×STEAM」の学習による、新たな価値を創造できる資質・能力の育成

3 数学科における「新たな価値を創造できる資質・能力」の捉え

ア 問題発見・解決能力 各教科等の「見方・考え方」を自在に働かせ、本質的な問いを見いだすこと	イ 批判的思考力 多面的・多角的に考察し、よりよい解決方法を見いだすこと	ウ 自分のよさや可能性を認識し、その力をさらに伸ばしたり、社会に生かそうとしたりする力 自己の生き方を尊重できること、他者を尊重し多様な他者と協働できること、社会貢献したり持続可能な社会を創造しようとしたりすること
目的に応じて必要な観点を持ち、その観点から事象をモデル化すること	特定の見方・考え方に固執するのではなく、柔軟に思考し、最適解を見いだすこと	数学的に考えるよさを実感し、事象を数理的に捉えて未来を予測すること

4 数学科における全校研究テーマの受け止め

中学校学習指導要領（平成 29 年度告示）解説数学編第 2 章第 1 節数学科の目標には、「数学的な見方・考え方」について、「数学の学習において、物事の特徴や本質を捉える視点や思考の進め方や方向性を意味することと考えられる。」や「数学の学びの中で鍛えられた見方・考え方を働かせながら、世の中の様々な物事を理解し思考し、よりよい社会や自らの人生を創り出していくことが期待される。」と示されている。また、「数学的に考える資質・能力を支え、方向付けるものであり、数学の学習が創造的に行われるために欠かせないものである。」とも示されている。

本校数学科では、生徒が、「数学的な見方・考え方」を鍛えたり有効に働かせたりするためには、右に示す六つの過程を、行き来しながら経験することが大切であると考えた。このような一連の過程を、数学科の授業において、3 年

- ・数学を用いて問題解決するために、目的に応じて必要な視点を持ち、その視点から事象を数理的に捉えること
- ・問題解決の方法と結果の見直しをもつこと
- ・見直しを基に追究の計画を立てること
- ・追究した内容を数学的な表現を用いて示すこと
- ・得られた結果の妥当性を検討すること
- ・得られた結果を意味付けたり、追究の過程を見直し修正・改善したりすること

通して経験できるようにすることで、中学校数学科の内容にある「A数と式」、「B図形」、「C関数」、「Dデータの活用」の四つの領域に加え、「あさひのプロジェクト」においても、「数学的な見方・考え方」を働かせ、数学科で育成を目指す資質・能力や「新たな価値を創造できる資質・能力」が育成されたり発揮されたりすると考えた。

以上のことから、「学習指導要領」の具現と「新たな価値を創造できる資質・能力」を育成するために、令和 5 年度の数学科の研究テーマを次のように設定した。

5 令和 5 年度 数学科研究テーマ

数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現し、判断する力を高める学習の在り方

理 科

◎平澤 峻 ○牧島 司 金箱 仁志 上原 幸成

1 目指す生徒の姿

豊かな社会を切り拓こうとする自立した学習者

2 全校研究テーマ

「キャリア×STEAM」の学習による、新たな価値を創造できる資質・能力の育成

3 理科における「新たな価値を創造できる資質・能力」の捉え

ア 問題発見・解決能力 各教科等の「見方・考え方」を自在に働かせ、本質的な問いを見いだすこと	イ 批判的思考力 多面的・多角的に考察し、よりよい解決方法を見いだすこと	ウ 自分のよさや可能性を認識し、その力をさらに伸ばしたり、社会に生かそうとしたりする力 自己の生き方を尊重できること、他者を尊重し多様な他者と協働できること、社会貢献したり持続可能な社会を創造しようとしたりすること
見通しを持ち、検証できる仮説を設定すること	探究の過程の全体を振り返って推論したり、改善策を考えたりすること	理科の学習で得た知識及び技能を活用して、自然の事物・現象を総合的に見たり、考えたりすること

4 理科における全校研究テーマの受け止め

中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説第 2 章第 1 節教科の目標には、「自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを旨とする。」と示されている。

本校理科では、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成するために、身の回りの事物・現象に対して、複数の実験結果やその結果に影響を与える要因を考慮しながら、関係性や規則性などを見いだし、表現することが必要であると考え。そのためには、一つの事象に複数の要因が関係する実生活の課題について、根拠のある仮説をもとに実験を立案し、観察、実験を行い、その結果を分析して解釈しながら解決する学習を構想する。このような学習を積み重ねていくことで、「あさひのプロジェクト」においても、実生活・実社会の諸課題に対して、対象者から得られた情報を分析・整理する中で関係性や規則性などを見い出して問題を定義し、探究することができるようになり、理科で育成された資質・能力が、問題解決に向けて発揮されると考えた。

これらのことから「学習指導要領」の具現と「新たな価値を創造できる資質・能力」を育成するために、令和 5 年度の理科研究テーマを以下のように設定した。

5 令和 5 年度 理科研究テーマ

観察・実験の結果を分析して解釈する力を高める学習の在り方

音 楽 科

◎志賀 浩介

1 目指す生徒の姿

豊かな社会を切り拓こうとする自立した学習者

2 全校研究テーマ

「キャリア×STEAM」の学習による、新たな価値を創造できる資質・能力の育成

3 音楽科における「新たな価値を創造できる資質・能力」の捉え

ア 問題発見・解決能力 各教科等の「見方・考え方」を自在に働かせ、本質的な問いを見いだすこと	イ 批判的思考力 多面的・多角的に考察し、よりよい解決方法を見いだすこと	ウ 自分のよさや可能性を認識し、その力をさらに伸ばしたり、社会に生かそうとしたりする力 自己の生き方を尊重できること、他者を尊重し多様な他者と協働できること、社会貢献したり持続可能な社会を創造しようとしたりすること
表現したいイメージをもち、そのために必要な知識・技能を身に付け、更にイメージを更新していくこと	既習の知識・技能を生かしながら、考察対象にふさわしい表現を創意工夫すること	多様な音楽や表現の価値を認識し、音楽が社会に果たす役割を考えながら、新たな音楽文化を生み出そうとすること

4 音楽科における全校研究テーマの受け止め

中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説音楽編第 2 章 1 節の音楽科の目標には、「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化との関わり方には、（中略）様々な形があるが、そのいずれもが音や音楽、音楽文化を知り支えることになり、生活の中の音や音楽の働きを自覚し、音楽文化を継承、発展、創造することにつながる」と示されている。また、それらの資質・能力を育成するための「思考力・判断力・表現力」に関する目標として、「音楽表現を創意工夫すること（中略）」と示されている。

これらを受け、本校音楽科では、表現領域に注目し、音楽表現を創意工夫する力を高める学習を行うことで、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力の育成を図り、ひいては全校研究テーマである「新たな価値を創造できる資質・能力」の具現につなげたいと考えた。そのために、歌唱分野、器楽分野、創作分野からなる表現領域において、音楽表現を創意工夫する過程を重視した学習を行う。このような学習を繰り返し行うことを通して、生徒は、多様な音楽や表現の価値を認識し、音楽が社会に果たす役割を考えながら、新たな音楽文化を生み出そうとすることにも活かしていくことができると考えた。

以上のことから、「学習指導要領」の具現と「新たな価値を創造できる資質・能力」を育成するために、令和 5 年度の音楽科の研究テーマを次のように設定した。

5 令和 5 年度 音楽科研究テーマ

音楽表現を創意工夫する力を高める学習の在り方

美 術 科

◎常田 浩二

1 目指す生徒の姿

豊かな社会を切り拓こうとする自立した学習者

2 全校研究テーマ

「キャリア×STEAM」の学習による、新たな価値を創造できる資質・能力の育成

3 美術科における「新たな価値を創造できる資質・能力」の捉え

ア 問題発見・解決能力 各教科等の「見方・考え方」を自在に働かせ、本質的な問いを見いだすこと	イ 批判的思考力 多面的・多角的に考察し、よりよい解決方法を見いだすこと	ウ 自分のよさや可能性を認識し、その力をさらに伸ばしたり、社会に生かそうとしたりする力 自己の生き方を尊重できること、他者を尊重し多様な他者と協働できること、社会貢献したり持続可能な社会を創造しようとする
主題を基に対象を再度深く見つめたり、内面や本質を捉え直したりして考えること 意図に応じて様々な技能を応用したり、工夫を繰り返して自分の表現方法を見つけ出したりすること	客観的な視点を踏まえて感情にもたらず効果を理解したり、全体のイメージや文化的な視点で捉えることを理解したりすること	自分にしかない価値をつくりだし続ける意欲をもつこと 美術の表現や鑑賞に親しんだり、生活環境を美しく飾ったり構成したりするなどして、心潤う生活を創造しようとする

4 美術科における全校研究テーマの受け止め

中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説美術編第 2 章 1 節の美術科の目標には、「今回の改訂では、造形的な視点を豊かにもって対象や事象を捉え、創造的に考えを巡らせる資質・能力の育成を重視している。」と示されている。

本校美術科では、表現及び鑑賞の学習において、生活や社会の中の対象や事象を捉える際、造形の要素とそこから感じたこととの関わりに着目して考えを巡らせることが大切であると考えている。そのためには、対象や事象から自分が感じたことを友と伝え合い、その根拠を話し合う活動を位置付ける必要があると考えた。このようにすることで、生活や社会の中のものの形や色彩、材料などの多様な造形の要素の働きからくるイメージや構成の美しさなどを捉え、自分としての意味や価値をもつことができると考えた。さらに、友の感じたことを聞き、互いの根拠を話し合うことで、新たな視点に気付くとともに、新たな考え方や感じ方を理解し、創造的に考えを巡らせる力を高めることにつながると考えた。

以上のことから、「学習指導要領」の具現と「新たな価値を創造できる資質・能力」を育成するために、令和 5 年度の美術科研究テーマを次のように設定した。

5 令和 5 年度 美術科研究テーマ

創造的に考えを巡らせる力を高める学習の在り方

保 健 体 育 科

◎青木 孝文 ○堀口 はるか 渡部 顕治 渡辺 南都

1 目指す生徒の姿

豊かな社会を切り拓こうとする自立した学習者

2 全校研究テーマ

「キャリア×STEAM」の学習による、新たな価値を創造できる資質・能力の育成

3 保健体育科における「新たな価値を創造できる資質・能力」の捉え

ア 問題発見・解決能力 各教科等の「見方・考え方」を自在に働かせ、本質的な問いを見いだすこと	イ 批判的思考力 多面的・多角的に考察し、よりよい解決方法を見いだすこと	ウ 自分のよさや可能性を認識し、その力をさらに伸ばしたり、社会に生かそうとしたりする力 自己の生き方を尊重できること、他者を尊重し多様な他者と協働できること、社会貢献したり持続可能な社会を創造しようとしたりすること
目的に応じた課題を発見して解決すること	既習の知識や技能を自己や仲間の課題に応じて学習場面に適用したり、応用したりすること	運動が有する特性や魅力に応じて、自主的にその楽しさや喜びを味わおうとすること

4 保健体育科における全校研究テーマの受け止め

中学校学習指導要領（平成 29 年度告示）解説保健体育編第 1 章 2 節の改訂の要点には「体力や技能の程度、性別や障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるよう指導内容の充実を図ること。その際、共生の視点を重視して改善を図ること。」と示されている。

本校保健体育科では、生涯にわたって豊かなスポーツライフの実現を目指していく上で、運動のもつ楽しさを十分に味わうために、競技スポーツのルールにとらわれることなく、必要であれば自分たちに合ったルールを考え、つくり出しながら運動を楽しむことが大切であると考えている。そのために、その運動が有する特性や自分たちの目指す姿に合わせて必要なルールや運動の行い方を、仲間と合意形成を図りながら考え工夫し、実践する場を設定する。このようにすることで、生徒は、仲間と協働しながら自己や仲間が運動を楽しむために必要なルールや行い方をつくり出し、運動が有する特性や魅力に応じて、自主的にその楽しさや喜びを味わおうとすることができると考えた。また、「あさひのプロジェクト」においても、多様な考えを共有し折り合いをつけながら合意形成を図る場面で、保健体育科で育成された力が発揮されると考えた。

以上のことから、「学習指導要領」の具現と、「新たな価値を創造できる資質・能力」を育成するために、令和 5 年度の保健体育科研究テーマを以下のように設定した。

5 令和 5 年度 保健体育科研究テーマ

運動における協働の経験を通して、一人一人の違いを大切にしようとする意欲を高める学習の在り方

技 術 科

◎堀内 直人

1 目指す生徒の姿

豊かな社会を切り拓こうとする自立した学習者

2 全校研究テーマ

「キャリア×STEAM」の学習による、新たな価値を創造できる資質・能力の育成

3 技術科における「新たな価値を創造できる資質・能力」の捉え

ア 問題発見・解決能力 各教科等の「見方・考え方」を自在に働かせ、本質的な問いを見いだすこと	イ 批判的思考力 多面的・多角的に考察し、よりよい解決方法を見いだすこと	ウ 自分のよさや可能性を認識し、その力をさらに伸ばしたり、社会に生かそうとしたりする力 自己の生き方を尊重できること、他者を尊重し多様な他者と協働できること、社会貢献したり持続可能な社会を創造しようとしたりすること
生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、実践を通じて課題を解決すること	多様な側面や場面、複数の立場から判断し、最適化して考えること	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする

4 技術科における全校研究テーマの受け止め

中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説技術・家庭編第 2 章第 2 節技術分野の目標には「生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、（中略）課題を解決する力を養う」や「よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向け、（中略）技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う」と示されている。また、技術の見方・考え方を働かせるとは、「生活や社会における事象を、技術との関わりの視点で捉え、社会からの要求、安全性、環境への負荷や経済性などに着目して技術を最適化すること」と示されている。

技術科の授業において、問題解決学習の対象を身近な生活から始めて段階的に社会全体に広げていくことや、既存の技術を評価、選択、管理・運用することで解決できる問題から改良、応用しなければ解決できない問題へと発展させるなど、3 学年間見通して計画的に学習を行っていくことで、技術の「使い手」としてだけでなく、社会の問題を主体的に解決していこうとする技術の「作り手」としての資質・能力を育成できると考えている。このような力を活かしつつ、他教科の見方・考え方も同時に働かせることで社会のさまざまな問題を解決する「あさひのプロジェクト」の学習にもつながると考える。

以上のことから、「学習指導要領」の具現と「新たな価値を創造できる資質・能力」を育成するために、令和 5 年度の技術科の研究テーマを以下のように設定した。

5 令和 5 年度 技術科研究テーマ

生活や社会における課題についての解決策を複数の側面や立場から検討し、最適な方法によって解決する力を高める学習の在り方

家 庭 科

◎小林 輝紀

1 目指す生徒の姿

豊かな社会を切り拓こうとする自立した学習者

2 全校研究テーマ

「キャリア×STEAM」の学習による、新たな価値を創造できる資質・能力の育成

3 家庭科における「新たな価値を創造できる資質・能力」の捉え

ア 問題発見・解決能力 各教科等の「見方・考え方」を自在に働かせ、本質的な問いを見いだすこと	イ 批判的思考力 多面的・多角的に考察し、よりよい解決方法を見いだすこと	ウ 自分のよさや可能性を認識し、その力をさらに伸ばしたり、社会に生かそうとしたりする力 自己の生き方を尊重できること、他者を尊重し多様な他者と協働できること、社会貢献したり持続可能な社会を創造しようとしたりすること
見出した課題に対して具体的な実践を行い、考察したことを根拠や理由を明確にして表現すること	課題について多角的に捉え、解決方法を検討し、計画、立案すること	生活をよりよくするために身に付けた力を生かし、実践しようとする

4 家庭科における全校研究テーマの受け止め

中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説技術・家庭編第 3 章第 1 節の家庭分野の目標には、「生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとは、家庭分野で習得する知識が、個別の事実的な知識だけでなく、生徒が学ぶ過程の中で、既存の知識や生活経験と結び付けられ、家庭分野における学習内容の本質を深く理解するための概念として習得され、家庭や地域などにおける様々な場面で活用されることを意図している。」と示されている。

本校家庭科では、生徒の生活をよりよくするために身に付けた力を生かし、実践しようとする力を高めるために、模擬家族や実際の対象者などを設定し、習得した知識を用いて具体的な実践を行っていく学習を題材ごとに展開していく。そうすることで課題解決には様々な視点から多角的に判断していく必要があることに気づき、画一的な知識理解に留まらない、より実生活に寄った学びに繋がると考える。

このような学習を積み重ねていくことで、本題材以降の学習（他分野も含む）だけでなく、「あさひのプロジェクト」においても、家庭科で育成された資質・能力が発揮されることが考えた。

以上のことから、「学習指導要領」の具現と「新たな価値を創造できる資質・能力」を育成するために、令和 5 年度の家庭科の研究テーマを次のように設定した。

5 令和 5 年度 家庭科研究テーマ

生活事象を多角的に捉え、よりよい生活を営むために工夫する力を高める学習の在り方

英 語 科

入間川浩侑己
唐木澤 竜二

阿部 知之
Nanami Mimura

柳澤 征之
Damien Lavizzo

齊藤 優

1 目指す生徒の姿

豊かな社会を切り拓こうとする自立した学習者

2 全校研究テーマ

「キャリア×STEAM」の学習による、新たな価値を創造できる資質・能力の育成

3 英語科における「新たな価値を創造できる資質・能力」の捉え

ア 問題発見・解決能力 各教科等の「見方・考え方」を自在に働かせ、本質的な問いを見いだすこと	イ 批判的思考力 多面的・多角的に考察し、よりよい解決方法を見いだすこと	ウ 自分のよさや可能性を認識し、その力をさらに伸ばしたり、社会に生かそうとしたりする力 自己の生き方を尊重できること、他者を尊重し多様な他者と協働できること、社会貢献したり持続可能な社会を創造しようとしたりすること
必要な情報を捉えること	得られた情報や考えを、選択したり吟味したりすること	国際的視野に立って、相手に配慮をしながら社会に向けて自分の考えを発信すること

4 英語科における全校研究テーマの受け止め

中学校学習指導要領(平成 29 年度告示)解説外国語編第 1 章第 2 節の改定の趣旨には「グローバル化が急速に進展する中で、外国語によるコミュニケーション能力は、これまでのように一部の業種や職種だけでなく、生涯にわたる様々な場面で必要とされることが想定され、その能力の向上が課題となっている。」と示されている。

本校英語科では、コミュニケーション能力の向上を図るために、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築する中で、より適切な言語材料を用いて外国語で表現し伝え合うことが大切であると考え。そのために、以下の課程を繰り返し行うことが大切であると考えた。

- ・ 目的や場面、状況等に応じた課題を発見し、学習の見通しをもつ。
- ・ 自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いたりする。
- ・ 課題の解決に向けてやり取りや共有の中で、課題に向けた新たな考えや表現に気付く。
- ・ 新たな気づきを基に情報や考えを再構築する。
- ・ より適切な言語材料を用いて自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いたりする。

このような学習の課程を積み重ねていくことで、「新たな価値を創造できる資質・能力」が育成され、「あさひのプロジェクト」においても、例えば、相手の意見を受けて自分の考えを伝えるディスカッションの場面で、英語科で育成された力が発揮されると考えた。

以上のことから、「学習指導要領」の具現と「新たな価値を創造できる資質・能力」を育成するために、令和 5 年度の英語科研究テーマを以下のように設定した。

5 令和 5 年度 英語科研究テーマ

目的や場面、状況等に応じて、事実や考え、気持ちなどを伝え合う力を高める学習の在り方

道 徳 科

◎村田 茜 牧島 司 丸山 進一

1 目指す生徒の姿

豊かな社会を切り拓こうとする自立した学習者

2 全校研究テーマ

「キャリア×STEAM」の学習による、新たな価値を創造できる資質・能力の育成

3 道徳科における「新たな価値を創造できる資質・能力」の捉え

ア 問題発見・解決能力 各教科等の「見方・考え方」を自在に働かせ、本質的な問いを見いだすこと	イ 批判的思考力 多面的・多角的に考察し、よりよい解決方法を見いだすこと	ウ 自分のよさや可能性を認識し、その力をさらに伸ばしたり、社会に生かそうとしたりする力 自己の生き方を尊重できること、他者を尊重し多様な他者と協働できること、社会貢献したり持続可能な社会を創造しようとしたりすること
自分との関わりで物事を捉え、自己理解を深めていくこと	諸事情の背景にある多面性に着目し、様々な角度から統合的に考察すること	主体的な判断に基づき適切な行為を選択し、よりよく生きていこうとすること

4 道徳科における全校研究テーマの受け止め

中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説道徳編第 2 章第 2 節の道徳科の目標には、「道徳性の発達の出発点は、自分自身である」と同時に、現代的な諸課題に対応していくためには「多様な価値観の存在を前提にして、他者と対話し協働しながら、物事を広い視野から多面的・多角的に考察することが求められる」と示されている。

これらのことを受け、本校道徳科では、一人一人が自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に捉え、道徳的心情を育むことが大切だと考えた。そこで、生徒が自己との関わりの中で見いだした問題から主題を設定し、1 単位時間の道徳の授業だけではなく、主題に関連する複数の内容項目からなる題材展開の中で、それぞれの道徳的価値の理解を深めながら主題を追求していく学習を構想する。

このような学習を積み重ねていくことで、新たな価値を創造できる資質・能力が育成され、「あさひのプロジェクト」においても、実生活や実社会の諸課題に対して自分と関わらせて考えたり、様々な立場の考えや事情を鑑みながら解決策を考えたりすることができる。

以上のことから、「学習指導要領」の具現と「新たな価値を創造できる資質・能力」を育成するために、令和 5 年度の道徳科の研究テーマを次のように設定した。

5 令和 5 年度 道徳科研究テーマ

道徳的諸価値についての理解を基に、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、道徳的心情を育むための学習の在り方

特 別 活 動

◎堀口 はるか ○青木 孝文 金子 智

1 目指す生徒の姿

豊かな社会を切り拓こうとする自立した学習者

2 全校研究テーマ

「キャリア×STEAM」の学習による、新たな価値を創造できる資質・能力の育成

3 特別活動における「新たな価値を創造できる資質・能力」の捉え

ア 問題発見・解決能力 各教科等の「見方・考え方」を自在に働かせ、本質的な問いを見いだすこと	イ 批判的思考力 多面的・多角的に考察し、よりよい解決方法を見いだすこと	ウ 自分のよさや可能性を認識し、その力をさらに伸ばしたり、社会に生かそうとしたりする力 自己の生き方を尊重できること、他者を尊重し多様な他者と協働できること、社会貢献したり持続可能な社会を創造しようとする
生活の中で生じる課題を見だし、解決のために話し合い、決まったことを実践して振り返り、次の課題解決に向かうこと	異なる意見や意思をもとに、解決方法を模索し、多面的・多角的に考えて、課題や解決方法を見いだすこと	多様な集団に所属し、その中でよりよい人間関係を形成しようとする、よりよい集団や社会を構築しようとする、自己実現を図ろうとする

4 特別活動における全校研究テーマの受け止め

中学校学習指導要領（平成 29 年度告示）解説特別活動編第 2 章第 2 節 1 の人間形成と特別活動には、「複雑で変化の激しい社会をたくましく生きていかなければならない生徒には、多様な他者と協働して創造的に課題を解決する力や、希望や目標をもって生きる態度を身に付けることが重要である。」と示されている。

本校、特別活動では多様な他者と協働して創造的に課題を解決する力を高めるために、主体的に生活をよりよくするための課題を解決する力を高めることが大切だと考えた。そのために、学級の課題を把握し、解決しなければならない理由を明確にして、その解決方法を友と話し合い実践して振り返り、次に取り組むべき課題や解決方法を見いだしていくことが大切だと考えた。

このような学習の課程を積み重ねていくことで、「新たな価値を創造できる資質・能力」が育成され、「あさひのプロジェクト」においても、企画して行った活動をグループの友と話し合っ振り返り、新たな活動を決め出す際などに、特別活動で育成された力が発揮されると考えた。

以上のことから、「学習指導要領」の具現と「新たな価値を創造できる資質・能力」を育成するために、令和 5 年度の特別活動の研究テーマを次のように設定した。

5 令和 5 年度 特別活動研究テーマ

生活をよりよくするための課題を解決する力を高める学習の在り方

総合的な学習の時間

◎佐々木 清花 ○村田 茜 小林 輝紀 牧島 司

1 目指す生徒の姿

豊かな社会を切り拓こうとする自立した学習者

2 全校研究テーマ

「キャリア×STEAM」の学習による、新たな価値を創造できる資質・能力の育成

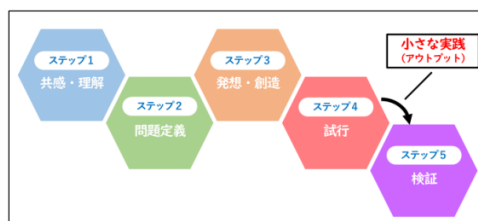
3 総合的な学習の時間における「新たな価値を創造できる資質・能力」の捉え

ア 問題発見・解決能力 各教科等の「見方・考え方」を自在に働かせ、本質的な問いを見いだすこと	イ 批判的思考力 多面的・多角的に考察し、よりよい解決方法を見いだすこと	ウ 自分のよさや可能性を認識し、その力をさらに伸ばしたり、社会に生かそうとしたりする力 自己の生き方を尊重できること、他者を尊重し多様な他者と協働できること、社会貢献したり持続可能な社会を創造しようとする
日常生活や社会に目を向けて、そこから湧き上がってくる疑問や関心に基づいて自ら課題を見つけ、探求のプロセスを繰り返しながら豊かに学習すること	課題に対して、多様な角度から俯瞰して捉えながら、自らの知識や技能等を総合的に働かせて、目の前の具体的な課題に粘り強く対処し、解決しようとする	探求的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら自己の生き方を考え、積極的に社会に参画しようとする

4 総合的な学習の時間における全校研究テーマの受け止め

中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説総合的な学習の時間編第 2 章第 1 節の総合的な学習の時間の目標には、「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する」と示されている。

これらの資質・能力を育成するために実生活・実社会の諸課題の解決に向けて、自分のできる実践を考え、自己の生き方を考えることが必要だと考える。そのために、デザイン思考を用いて、地域の方や企業と関わったり、立案した小さな実践や活動報告（ステップ 3・4）を繰り返しながら大きな実践（ステップ 5）へと進んでいく学習を構想する。このようにすることで、社会の中で自分の可能性や価値を認識し、社会に生かそうとする意欲が高まると考えた。



以上のことから、「学習指導要領」の具現と「新たな価値を創造できる資質・能力」を育成するために、令和 5 年度の総合的な学習の時間の研究テーマを次のように設定した。

5 令和 5 年度 総合的な学習の時間の研究テーマ

自分の可能性や価値を認識し、社会に生かそうとする意欲を高める学習の在り方